

日本語における qualifier

—形容詞・形容動詞・名詞述語を中心に—

R O N I

要旨

qualifier は語順に基づく言語類型論において、述語の主要な要素を修飾する形式である。日本語の qualifier は主要な要素の品詞によって、相対的に動詞 qualifier、形容詞 qualifier、形容動詞 qualifier、名詞 qualifier の四つに区分できるが、本稿では後者の三つを中心に扱う。形容詞・形容動詞・名詞の語根と qualifier 形式が接続する際、連結要素が変わる。形容詞述語構造の場合、形容詞の最後の-i は連結要素として、「-i>-i」「-i>-Ø」「-i>-ku」になり、形容動詞述語の場合、連結要素-da が「-da>-da」「-da>-Ø」「-da>-na」になり、名詞述語構造の場合、連結要素-da が「-da>-da」「-da>-Ø」「-da>-na」「-da>-no」となる。これらの連結方法を使用する qualifier は大文字 Q という。この場合、大文字 Q は直接に形容詞語根、形容動詞、名詞に接続する。そして、三つの述語とも、時制要素の -ru, -ta を表す大文字 Q に接続する小文字 q もある。この場合、小文字 q は直接に形容詞語根、形容動詞、名詞に接続しない。日本語の qualifier の条件によって、形容詞・形容動詞・名詞の qualifier は 34 個の形式がとりあげられた。

1. はじめに

qualifier は語順に基づく言語類型論において、述語の主要な要素を修飾する形式である。日本語では、述語に位置する主要な要素には一般的に動詞・形容詞・形容動詞・名詞の四つの品詞がある。この分類に基づいて日本語の qualifier は相対的に動詞 qualifier、形容詞 qualifier、形容動詞 qualifier、名詞 qualifier の四つに区分できる。Roni (2008) は動詞述語を中心に、日本語における qualifier の形式を取り上げた。

動詞述語句構造では、動詞語根と qualifier 形式からなる。Roni (2009) は動詞述語句構造において、動詞語根と qualifier 形式がどのように連結するかについて、子音動詞を中心に検討し、連結要素の音素を形態音韻論の観点から位置づけを検討した。本稿では、これを踏襲し日本語の qualifier を、形容詞・形容動詞・名詞を中心に検討したい。

2. 動詞 qualifier の特徴

日本語における動詞 qualifier の研究結果において、いくつかの大事な点があるが、その内、次の二点は本研究でも基準として使用する。一つ目は、日本語の動詞 qualifier になる形式の条件である。それは、①動詞語根と連続して動詞句、言わば動詞述語構造を構成する、②句という構造として動詞語根とその形式の関係が強固で、その間に、成分に相当する言語単位の侵入を認めない、という条件である。Roni (2008) はこの二つの条件で、日本語の動詞述語における qualifier 形式をデータ源の限りで、101 個記述した。この qualifier 形式はそれぞれ一体化・文法化した一つの形式として扱うことができると考えられる。

二つ目は、動詞語根と qualifier 形式がどのように連結するかに関して、八つの方法があることである。日本語の動詞は、抽象的レベルでは語構造が「動詞語根+ru」からなる。この -ru は意味を持た

ない連結要素として扱う。動詞語根と qualifier 形式の連続によって連結要素-ru が変わったり変わらなかったりする。-ru の変更によって八つの連結方法を決定した。それらは次のようである。「>」という印は変化の順)





(1) 連結要素-ru の変更

連結方法	qualifier の種類	連結要素 ru の変化	qualifier 形式の例
1	大文字「Q」	-ru>-ru	-maeni, -to, -kotogadekiru
2		-ru>-i	-masu, -tai, -yasui
3		-ru>-i>∅	-tekara, -teoku, -tabakarida
4		-ru>-a	-nai, -reru, -seru
5		-ru>∅	-rareru, -saseru, -zuni
6		-ru>-e	-ba, -bail
7		-ru>-re	-ba, -bail
8	小文字「q」	時制の-ru/-ta に連続する	-kamoshirenai, -ka, -yooda, -hazuda, -kadooka

形態-ru は連結要素の代表である。日本語の動詞は規則動詞と不規則動詞の二つに区別できるが、規則動詞では、「語根+u」と「語根+ru」がある。前者は子音動詞 (V1) で、後者は母音動詞 (V2) である。この-u と-ru は連結要素である。連結要素は動詞だけでなく、形容詞「美しい utsukushii」の最後の-i や形容動詞「きれいだ kireida」と名詞「大学生だ gakuseida」の-da も連結要素と考えられる。後者の二つの-da は、文の述語における位置づけにおいていまだ議論になっている。本稿では、動詞-ru/-u と形容詞-i に並行するように、形容動詞と名詞の場合、その-da は必要であると判断し連結要素として扱う。このように-u と-ru と-i、-da も連結要素-ru で代表させた。

述語に位置する動詞・形容詞・形容動詞・名詞だけでなく、qualifier 形式にも、連結要素を持っているものがある。例えば、願望-tai の-i、丁寧-masu の-u、使役-saseru の-ru、伝聞-sooda の-da も連結要素と考えることができる。一方、非過去-ru、過去-ta、同時-nagara などは連結要素を持っていない。

形態-ru は抽象的レベルと具体的レベルの二面性がある。連結要素-ru に関しては、抽象的には意味を持っていないが、具体的には非過去の意味を持っている。具体的レベルは、実際の会話文で出現してくる。非過去の意味を持っている具体的レベルの-ru は qualifier 形式になっている。動詞述語句全体の構造は次の図 (2) である。日本語の動詞述語は「動詞語根+ru」からなっている。そのため、-ru の存在は必須である。連結要素-ru は抽象的レベルと具体的レベルの二面性がある。抽象的レベルでは-ru がただの連結要素で、実際には変化し-i、-∅、-a 等になる。一方、具体的レベルの-ru は非過去の意味を持っていて qualifier 形式になる。後者の-ru は他の qualifier 形式に変えることができる。qualifier 形式は大きい(大文字)Q と小さい(小文字)q の二つに区別でき、小文字 q 形式は基本的には動詞語根と直接的に接続できず、大文字 Q 形式に接続する。大文字 Q は表 1 の連結方法 1 ～ 7 ままで、小文字 q は表 1 の連結方法 8 で連結される。

(2)	連結要素 ru	
	抽象的レベル	具体的レベル
動詞語根	-ru (連結要素)	-ru (非過去)
		
例:	-ru/-u	-ru/-u
a yom-	-Ø-	-u (非過去)
b tabe-	-ru-	-kotogadekiru -kamoshirenai
c yom-	-i-	-masu -kedo
d yo(m>)n	-i->-Ø-	(-t->)-da -yooda
e yom-	-a-	-nai -hazuda
f yom-	-e-	-ba -nda
g tabe-	-re-	-ba
		 (大文字) Q  (小文字) q
動詞述語句の 構造		

3. 形容詞・形容動詞・名詞述語

述語は文の中心である。日本語では述語（部）という成分に位置する要素は様々であるが、基本的には動詞、形容詞、形容動詞、名詞であって、それぞれ動詞述語、形容詞述語、形容動詞述語、名詞述語という。述語に位置する要素をパターン分けすると、次の二つの文構造に分けられる。語のまま述語となり得る動詞・形容詞と、語彙的語のそのままでは述語となり得ない形容動詞と名詞である。後者は、述語に位置するには-daの類を伴う必要がある¹。これに関して、述語性という概念がある。述語性とは、述語になれるかどうかということで、単独（語のまま）でなれるなら完全な述語性を持つが、単独でなれないなら述語性が不完全であるという²。動詞と形容詞は述語が完全であるのに対して、形容動詞と名詞は不完全であると言えるが、-daによって述語として機能する³。-daに関しては実際の会話文では出現しない場合がある。ゆえに-daの存在は随意である。次の4節で説明する。

4. 形態-i と-da

上で触れたように、形容詞述語では、形態-iが必要である⁴のに対して、形容動詞と名詞は形態-daが必要である⁵。形態-iに関しては、全く形態-ruと同じである。具体的レベルでは、動詞述語は「動詞語根+ru」という構造で、形容詞述語は「形容詞語根+i」という構造であってそれぞれの-ruと-iの存在は必須である。それに対して、形容動詞述語と名詞述語ではそれぞれ「形容動詞+(da)」と「名詞+(da)」という構造で、-daの存在は随意的であると言える。一方、抽象的には、動詞述語は「動詞語根+ru」という構造で、形容詞述語は「形容詞語根+i」であるのに対して、形容動詞述語と名詞述語はそれぞれ「形容動詞+Ø」と「名詞+Ø」という構造であると考えられる。

なぜなら、語の観点から見ると、動詞 taberu(食べる)と形容詞 utsukushii(美しい)は語であると簡単に理解できるが、形容動詞 kireida(きれいだ)と名詞 kawada(川だ)はまず語・単語（語構造）というより句構造と捉えやすい。反対に、kireiとkawaは単語であるのに、tabeとutsukushiは語・単語

とは言えない。つまり、語・単語として扱うのは *taberu* と *utsukushii* と *kirei* と *kawa* である。連結要素（抽象的レベル）に関しては、その単語自身が自分の部分を連結要素として備えているかどうかという問題である。*taberu* と *utsukushii* のように内包して備えている場合、連結要素を持つと言い、*kirei* と *kawa* のように備えていない場合に連結要素を持たないと言う。このような簡単な規定で考えると次の表(3)になる。

(3) -ru と -i と -da の形態の存在

述語部	形態	抽象的レベル 連結要素として	具体的レベル qualifier 形式として	説明
動詞	-ru	必須	必須	-
形容詞	-i	必須	必須	-
形容動詞	-da	不要	随意	出現する場合 qualifier 形式になる
名詞	-da	不要	随意	出現する場合 qualifier 形式になる

この考え方は辞書・レキシコンの観点から見たものであると言える。語は語彙的語、形態的語、意味的語に大別される⁶。上では *taberu* と *utsukushii* と *kirei* と *kawa* は単語であると説明したが、それは語彙的語としての規定といえるであろう。形態的語上には *taberu* の *tabe-* と *-ru*、*utsukushii* の *utsukushi-* と *-i*、そして *kirei* と *kawa* はそれぞれ形態素である⁷。語の分類に関して田中春美 et. al (1975:85) は「いずれにしても、語を文法的単位として用いる場合には、十分な吟味が必要である」と述べた。つまり、どれを使用するかは研究の目的によって違う。

辞書・レキシコン上には、*-ru* が動詞語根とともに存在して、*-i* が形容詞語根とともに存在する。一方、形態 *-da* は、辞書・レキシコン上には形容動詞や名詞とともに存在しない。つまり、*-da* は動詞・形容詞と *-ru*・*-i* のように連結要素としての関係を持っていない。しかし、抽象的レベルでは、述語部に入れる時に *-da* を連結しないといけないと考える場合、*-da* はまず有標的に「助動詞」として位置づけるというのが適当であると考え⁸。言い換えれば、形容動詞と名詞は *-da* を付けると、完全に動詞と同じように述語部の位置に入れられる⁹。

一方、話し言葉では、*-da* の存在は必要というより随意性があると言える。用例(4)と(5)は *-da* があってもなくても文法的である。

(4) 夜は静か (だ)。

(5) 体は大丈夫 (だ)。

動詞の連結要素 *-ru* や形容詞の連結要素 *-i* と同じレベルになるように、抽象的レベルでは *-da* が必要であるという扱いをとるのが理想的である。つまり、「動詞語根 + *ru*」と「形容詞語根 + *i*」という構造があるのに対して、「形容動詞語根 + *da*」と「名詞語根 + *da*」という構造もある。一方、具体的レベルでは *-da* の存在は随意的である。このように、形態 *-da* は *-ru* と同じように、抽象的レベルと具体的レベルの二面性がある。抽象的レベルでは意味を持たず、ただの連結要素である。具体的レベルでは非過去の意味を持っていて、*-da* が出現する場合と出現しない場合がある。*-da* が出現する場合、その *-da* は *qualifier* 形式として扱うことができる。*da* が出現しない場合は *qualifier* 形式はない。以上

をうけて表3を改編すると次の表(6)になる。

(6) ru と i と da の形態の存在:表3の改編

述語部	形態	抽象的レベル 連結要素として	具体的レベル qualifier 形式として	説明
動詞	-ru	必須	必須	-
形容詞	-i	必須	必須	-
形容動詞	-da	必須	随意	出現する場合 qualifier 形式になる
名詞	-da	必須	随意	出現する場合 qualifier 形式になる

形態-daに関して、本研究は表(6)のように扱う。-daは普通体で、-dearuに並行している。さらに、-daは形容詞 ii に、-dearuは形容詞 yoi に相当すると説明できる。-da と ii は過去にしたり否定にしたりできない。その代わりに ii は yoi を使用して yokatta(過去)と yokunai(否定)になる。一方、-da は-dearu を使用して-dearu の aru の変化は動詞の方法の通りに de + atta > dō + atta > d + atta > datta(過去)と、de + nai > denai > de(wa)nai(否定)になる。更に、-dewanai の-dewa は-ja によって-janai になる場合もある。

5. qualifier の条件

2節で説明したように、日本語の動詞述語では、qualifier 形式になる条件は次の二つである。まず、①その形式は動詞語根と連続して動詞句、言わば動詞述語構造を構成する。また、②句という構造として動詞語根とその形式の関係が強固で、その間に、成分に相当する言語単位の侵入を認めない。本稿でも、この二つの条件を使用して、形容詞・形容動詞・名詞の qualifier 形式を判断していく。

hanasu(話す)、ookii(大きい)、kirei(きれい)、kawa(川)はそれぞれ単語(或いは「語」と呼ばれる。単語は、文を構成する単位であるが、意味の観点からすると、最小の単位とは言えない。意味を持っている最小の単位は形態素である¹⁰。hanasu は hanas + u で、ookii は ooki + i で、二つの形態素からなる。これに対して、kirei と kawa は一つの形態素である。しかし、hitsuyoo、tegami、teinei に対して、それぞれ fuhitsuyoo、otegami、teineisa があるが、これらは語形成のレベルの問題である¹¹。fuhitsuyoo の fu-、otegami の o-、teineisa の -sa などは接頭辞と接尾辞で qualifier 形式になるかもしれないが、本稿では一応複合動詞の扱いと同じように一つの述語主要部の単語として扱う。

6. データの観察

本節はデータ源の限り、形容詞 qualifier、形容動詞 qualifier、名詞 qualifier を採取し、それぞれの qualifier 形式と連結する方法を記述する。データ源とデータの記号は次のように整理する。『みんなの日本語初級 I』と『みんなの日本語初級 II』は MNS と省略して、『新日本語中級』は SNC と省略する。「~/~」は「課/頁」を表す。例えば「MNS48/189」は『みんなの日本語初級 II』の 48 課 189 ページという意味である。

6. 1. 形容詞 qualifier

形容詞 qualifier は形容詞述語で、形容詞語根と連結する qualifier 形式である。形容詞語根と

qualifier 形式は形容詞述語部という句構造を構成する。上記に述べたように、形容詞の最後の-i は動詞の-ru と同じ扱いで抽象的レベルでは意味を持たない連結要素として、具体的レベルでは非過去の意味を持つ qualifier 形式として扱う。形容詞語根と qualifier 形式は「-i>-i」と「-i>-0」と「-i>-ku」と小文字 q の四つの方法で連結する。

「-i>-i」の連結方法では形容詞語根が qualifier 形式に接続したら、連結要素-i がそのまま出現する。「-i>-0」の連結方法では連結要素-i が消える。つまり、ゼロ-0 になる。そして、「-i>-ku」の連結方法では-i が-ku に変化する。一方、小文字 q というのは、常に他の qualifier 形式に接続する qualifier 形式である。その qualifier は直接的に形容詞語根と連結せず、他の qualifier に連結する。つまり、間接的に形容詞語根に連結する。それぞれの qualifier 形式と例文は表(7)～(10)のようである。

(7) 形容詞 qualifier : 「-i>-i」の連結方法

番号	qualifier 形式	用例	意味 ^{1,2}	データ
1	-sooda (伝聞)	新聞によると、今年は夏が <u>短い</u> そうです。	伝聞	MNS 47/180

(8) 形容詞 qualifier : 「-i>-0」の連結方法

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-i	日本は物価が高い。	非過去	MNS 20/164
2	-katta	昨日は寒 <u>かった</u> です。	過去	MNS 12/96
3	-kattara	安 <u>かったら</u> 、買いたいです。	仮定	MNS 25/206
4	-kereba	今日忙し <u>ければ</u> 、明日来て下さい。	仮定	MNS 35/78
5	-sooda	この料理は <u>まず</u> そうです。	証拠	MNS 43/146

(9) 形容詞 qualifier : 「-i>-ku」の連結方法

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-nai	あまり寒 <u>くない</u> です。	否定	MNS 8/64
2	-te	ミラーさんは <u>若くて</u> 、元気です。 話し方が <u>早くて</u> 、わかりません。	原因・順番	MNS 16/132 MNS 39/112
3	-temo	高 <u>くても</u> 、この家を買いたいです。	反対	MNS 25/208

(10) 形容詞 qualifier : 小文字 q

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-desu	富士山は高い <u>です</u> 。	丁寧	MNS 8/64
2	-ka	プレゼントは何が <u>いいか</u> 、教えてください。	疑問	
3	-ga	[ウォークマン]それからラジオが付いているものが <u>いいんですが</u> ・・・ 資料が <u>ほしいんですが</u> 、送っていただけませんか。	丁寧・話題・反対	SNC 8/109 MNS 26/4
4	-nda	A: どうして会社を休んだんですか。 B: 頭が痛 <u>かったん</u> です。	強調	MNS 26/4
5	-shi	値段も安 <u>いし</u> 、味も <u>いいし</u> 、いつもこの店で食べています。	追加	MNS 28/20
6	-node	毎日忙しいので、どこも遊びに行 <u>けませ</u> ん。	理由	MNS 39/112

7	-yooda	外は寒いようです。	証拠	MNS 47/180
8	-kara	小川：いいえ、そうじゃなくて、みんな違う時間に会社に行きましょう、ってことです。 李：ああ、ラッシュがすごいからですね。	理由	SNC 1/15
9	-yo	A:将棋が強いって聞いたんですが。 B:えっ、そんなに強くないよ。	強調	SNC 3/49
10	-naa	小川:実はJリーグの切符が2枚あるんだけど、一緒にどうかなあとおもって・・・ 李:Jリーグですか。わあ、うれしいなあ。	感嘆	SNC 5/67
11	-ne	この辺は大きい家が多いね。	確認	SNC 16/213
12	-tte	技術部の小川さんタイ語がすごくうまいんだって。	伝聞	SNC 16/216
13	-kedo	小川：・・・両親も今は別々に住む方が気が楽だっていますし。 伊藤：まあ元気なうちはいいけどね。	丁寧	SNC 19/251

6. 2. 形容動詞 qualifier

形容動詞 qualifier は形容動詞述語句で、形容動詞に接続する qualifier 形式である。形容動詞と名詞は、動詞の-ru と形容詞の-i のような連結要素を持たない。3節で説明したように、述語性の観点から-da が必要であるという面では-da は連結要素として扱えるが、4節で述べたように実際の文中では随意性を持っており、必要の場合と必要でない場合との議論がある。更に、辞書・レキシコン上でも動詞-ru と形容詞-i はそれぞれ-ru と-i が出るのに対して、形容動詞と名詞は-da が出ない。本研究では次の立場をとる。4節で触れたように、抽象的レベルでは、形容動詞と名詞は-ru と-i に並行し、更に一貫するように-da を連結要素として取り扱う。具体的レベルでは、随意性がある。つまり、あっても無くても良い。スタイルやフォーマル度などのような状況による。

形容動詞と名詞は連結要素として-da を使用するため、形容動詞 qualifier では、形容動詞と qualifier 形式が接続する時、連結要素-da はそのまま変わらないものと変わるものがある。前者の変わらないものは「-da>-da」で、変わったものはそれぞれ「-da>-Ø」と「-da>-na」である。更に、動詞 qualifier と同じように小文字「q」という qualifier 形式もある。後者は小文字 q の連結方法とする。

-da>-da の連結要素では、形容動詞と qualifier の間に連結要素-da がそのまま出る。つまり、変わらない。「-da>-Ø」の連結方法では、連結要素-da が無くなるが、変わったものに入れる。「-da>-na」の連結方法では、連結要素-da が-na に変化する。一方、小文字 q というのは、上記の説明と同様に、その qualifier は直接的に形容動詞と連結せず、他の qualifier に連結する。形容動詞とは間接的に連結する。それぞれの qualifier 形式と例文は表(11)～(14)のようである。

(11) 形容動詞 qualifier : 「-da>-da」の連結要素

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-sooda	新聞によると、札幌の雪まつりは <u>きれいだそう</u> です。	伝聞	MNS 47/180

(12) 形容動詞 qualifier : 「-da>-Ø」の連結方法

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
----	--------------	----	----	-----

1	-desu	桜はきれいです。	丁寧	MNS 8/64
2	-da	洋服は着るのが大変だ。	非過去	MNS 39/117
3	-ja(dewa)nai	あまりきれいじゃない。	否定	MNS 8/64
4	-de	ミラーさんはハンサムで、親切です。 話が複雑で、よくわかりませんでした。	順番・原因	MNS 16/132 MNS 39/110
5	-datta	沖縄の海はきれいだった。	過去	MNS 20/164
6	-ne	ミラーさん、いつも元気ね。	確認	MNS 20/171
7	-demo	便利でも、カードは使いません。	反対	MNS 25/208
8	-dattara	無理だったら、金曜日に出してください。	仮定	MNS 25/206
9	-nara	操作が簡単なら、簡単なほど、いいです。	仮定	MNS 35/78
10	-sooda	この机は丈夫そうです。	証拠	MNS 43/146

(13) 形容動詞 qualifier : 「-da>-na」の連結方法

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-noni	夫は料理が上手なのに、あまり作ってくれません。	反対	MNS 45/162
2	-hazuda	課長はドイツ語が上手なはずです。	確実	MNS 46/172
3	-yooda	部長はイギリス文学が好きなようです。	証拠	MNS 47/180
4	-no	田村：難しそうね。それには何か資格が必要なの？	疑問	SNC 15/201
5	-nda	…でも、例えば情報処理技術者の資格を持てれば、もっと有利なんですよ。	強調	SNC 15/201

(14) 形容動詞 qualifier : 小文字 q

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-ne	このスプーン、すてきですね。	確認	MNS 7/57
2	-shi	ワット先生は熱心だし、まじめだし、それに経験もあります。	追加	MNS 28/18
3	-kamoshirenai	彼は来週暇かもしれません。	推量	MNS 32/54
4	-kara	私なんか字が下手だから、上手な人がうらやましいよ。	理由	SNC 14/195
5	-ne	随分にぎやかですね。	確認	SNC 1/14
6	-yo	佐々木さんの部屋から煙が出て、大変だったんですよ。	強調	SNC 14/193

6. 3. 名詞 qualifier

名詞 qualifier は名詞述語句において、名詞に接続する qualifier 形式である。6.2 節で説明したように、単語的に名詞も連結要素を持たないが、-ru と -i に並行するため、形態 -da は連結要素として扱う。名詞 qualifier は名詞に接続する時に、「-da>-da」、「-da>-Ø」、「-da>-na」、「-da>-no」、小文字 q の五つの連結方法を使用する。「-da>-da」の連結方法では、名詞と qualifier の間に連結要素 -da が変わらなくそのまま使用する。「-da>-Ø」の連結方法では、名詞と qualifier の間に連結要素 -da が消えて、「-Ø>-na」の連結要素では、連結要素 -da が -na に、「-da>-no」の連結要素では、連結要素 -da が -no に変化する。そして、小文字 q というのは、その qualifier は直接的に名詞と接続せず、他の qualifier に接続する。名詞とは間接的に連結する。それぞれの qualifier 形式と例文は表 (15) ~ (19) のようである。

(15) 名詞 qualifier : 「-da>-da」の連結方法

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-sooda	新聞によると、明日の天気は曇りだそうです。	証拠	MNS 47/180

(16) 名詞 qualifier : 「-da>-Ø」の連結方法

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-da	今日は僕の誕生日だ。 うん、独身だ。	非過去	MNS 20/164 MNS 20/171
2	-desu	私はマイク・ミラーです。	丁寧	MNS 1/6
3	-janai	いや、大阪じゃないと思いますよ。きっと横浜でしょう。	否定	SNC 12/165
4	-de	カリナさんです。インドネシア人で、富士大学の留学生です。	順番	MNS 16/130
5	-datta	古くて、大きい神社だった。	過去	MNS 20/171
6	-demo	日曜日でも、働きます。	反対	MNS 25/208
7	-dattara	男の子だったら、「ひかる」です。	仮定	MNS 25/206
8	-nara	土曜日はいい天気なら、海に行きませんか。	仮定	MNS 35/78

(17) 名詞 qualifier : 「-da>-na」の連結方法

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-nda	A: どうしてエアコンをつけないんですか。 B: 故障なんです。	強調	MNS 26/4
2	-node	今日は誕生日なので、ワインを買いました。	理由	MNS 39/112
3	-noni	今日は日曜日なのに、働かなければなりません。	反対	MNS 45/162

(18) 名詞 qualifier : 「-da>-no」の連結方法

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-maeni	食事の前に、手を洗います。 クリスマスの前に、プレゼントを買います。	順番	MNS 18/148
2	-atode	スポーツのあとで、シャワーを浴びます。 食事のあとで、コーヒーを飲みます。	順番	MNS 34/70
3	-hazuda	あのスーパーはあしたは休みのはずです。	確実	MNS 46/172
4	-toorini	この説明書の通りに、パソコンのキーを押してください。	適用	MNS 34/70
5	-yooda	小川さんの話は本当のようです。	証拠	MNS 47/180

(19) 名詞 qualifier : 小文字 q

番号	qualifier 形式	用例	意味	データ
1	-ka	ミラーさんは会社員ですか。	疑問	MNS 1/6
2	-kara	新しい製品ですから、たぶん安くならないでしょう。	理由	MNS 32/56
3	-ne	金曜日の晩ですからね。	確認	SNC 1/14
4	-yo	佐々木：一戸建てだろう？ 小川：ああ、でも、うさぎ小屋だよ。	強調	SNC 16/213

6. 4. 小文字 q に関する問題

2 節で説明したように、大文字 Q は述語の主要要素に直接に接続する qualifier 形式を示すが、小文字 q は述語の主要要素に直接に接続せず、別の qualifier 形式に接続する qualifier 形式を示す。小文字 q 形式は常に時制を表す大文字 Q 形式に接続する。この考え方は動詞述語と形容詞述語で扱えば適当であるが、形容動詞と名詞に扱えば適当でない qualifier があるようである。例えば用例 (20) と (21) では、小文字 q 形式の -kamoshirenai は述語の主要要素 hima と kaishain に接続する。両方とも非過去の文である。過去を表す qualifier 形式 (-datta) を入れればそれぞれ (20a) と (21a) になる。

(20) 彼は暇かもしれない。

(20a) 彼は暇だったかもしれない。

(20b) *彼は暇だかもしれない。

(21) ミラーさんは会社員かもしれない。

(21a) ミラーさんは会社員だったかもしれない。

(21b) *ミラーさんは会社員だかもしれない。

過去の場合、過去を表す -datta を入れる必要はあるが、非過去の場合、非過去を表す -da を入れる必要はない。表 (6) の具体的レベルでは、-da は qualifier 形式として文の存在では、あってもなくてもよい、随意的である。更に、時制を表す -datta は hima/kaishain と -kamoshirenai の間に存在する。言い換えれば、-datta は -kamoshirenai に先行している。それと同様に、-da も hima/kaishain と -kamoshirenai の間に存在すると考える。しかし、(20) と (21) の例文では、非過去を表す -da は随意的であるというより、(20b) と (21b) のようにその -da を入れてはいけな。これらに基づいて、本稿では、非過去を表す -da は 0 になり、無標的であるとする。

7. まとめ

以上、形容詞・形容動詞・名詞の述語部における qualifier をデータの範囲内で記述した。本稿で述べたことは次のようにまとめられる。

- 日本語の動詞述語では、qualifier 形式になる条件は、①その形式は動詞語根と連続して動詞句、言わば動詞述語構造を構成する、②句という構造として動詞語根とその形式の関係が強固で、その間に、成分に相当する言語単位の侵入を認めない、というものである。この二つの条件に基づいて、日本語の形容詞述語、形容動詞述語、名詞述語における qualifier 形式を取り上げた。
- 述語性の概念に基づく、形容動詞語幹末の語尾 -i は動詞語尾 -ru と並行的であり、連結要素といちづけられる。形容動詞と名詞は -da を加えることによって述語句を構成するため、その -da を連結要素と考える。抽象的レベルでは -i と -da は連結要素として扱うが、具体的レベルでは非過去の意味で qualifier 形式になる。具体的レベルでは、-da は出現しない時もある。
- 形容詞・形容動詞・名詞の語根と qualifier 形式が接続する時、連結要素 -i、-da は様々に変化する。次のようである。形容詞語根と qualifier 形式の接続には、連結要素 -i は「-i>-i」と「-i>-0」と「-i>-ku」の三類に変化する。大文字 Q に接続する qualifier 形式（小文字 q）もある。形容動詞語根と qualifier 形式の接続には、連結要素 -da は「-da>-da」と「-da>-0」と「-da>-na」の

三類に変化する。大文字 Q に接続する小文字 q 形式もある。名詞語根と qualifier 形式の接続には、連結要素-da は「-da>-da」、「-da>-Ø」、「-da>-na」、「-da>-no」の四類に変化する。さらに大文字 Q に接続する小文字 q 形式もある。

- データの範囲内では、形容詞・形容動詞・名詞の qualifier 形式は 34 個の形式がとりあげられた。

参考資料

スリーエーネットワーク 2002『みんなの日本語初級 I』

スリーエーネットワーク 2002『みんなの日本語初級 II』

AOTS 2005『新日本語の中級』スリーエーネットワーク

参考文献

庵功雄 2001『新しい日本語学入門、ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク

田中春美 1975『言語学入門』大修館書店

寺村秀夫 1999『寺村秀夫論文集 I、日本語文法編』くろしお出版

町田健と榎山洋介 1995『よくわかる言語学入門、解説と演習』バベル・プレス

三尾砂 2003『三尾砂著作集 I』ひつじ書房

Roni 2008「日本語の動詞 qualifier」『名古屋大学国語国文学』第 101 p.82-100 号 2008 年 11 月

Roni 2009「述語句末音素の形態音韻論的位置づけ、子音動詞を中心に」『名古屋大学人文科学研究』第 38 号 p. 47-58
2009 年 2 月

¹ 寺村秀夫(1999:3)を参照。

² 庵勇雄(2001:42-43)を参照。

³ 辞書では、動詞 taberu の -ru と形容詞 atsui の -i は出るが、形容動詞 kantan と名詞 sensei 等には -da が出ない。

⁴ 動詞述語の場合、形態 -ru が必要である。

⁵ 形態 -da に関して、簡単に言えば、規範文法では -da がなければならず、必須なものであるのに対して、記述文法では -da がなくてもよく、随意なものであると言えるであろう。

⁶ 田中春美 et. al (1975 : p.85) を参照。

⁷ 意味的語というのは例えば、英語の table は形態的語には一つであるが、意味的語には table (テーブル) と table (表) の二つである。

⁸ 三尾(2003:262)は助動詞を改編する時に、助動詞として残すべきものの一つとして -da を挙げている。

⁹ むしろ、形容動詞と名詞だけでなく、「ジャカルタへ行くのは明日だ」の文のように副詞も -da を付けたら、述語部として機能している。

¹⁰ 町田健・榎山洋介(1995:44)を参照。

¹¹ これに対して、hanasu の -u と ookii の -i は接尾辞であると考えられるが、teineisa の -sa、chuushouteki の -teki などの接尾辞と違って、-u と -i は語尾として扱うという術語の使用がわかりやすい。

¹² 本研究では対象としないため、表にある「意味」は、便宜上のものである。